

ウイルス禍でも前向きに 学校蔵(西三川)で特別授業



ウイルス禍でも前向きな意見が多く寄せられた学校蔵の特別授業＝佐渡市西三川

佐渡市西三川の旧西三川小学校を利用した酒蔵「学校蔵」で、ワークショップ「学校蔵の特別授業」が開かれた。新型コロナウイルスの感染状況から、今回は初のオンライン開催。「どこにも行けない時代にココから創る未来」をテーマに、ウイルス禍でも前向きに生きる考え方について語り合った。

学校蔵は、同校の校舎を尾畑酒造（真野新町）が借り受け、2014年から活用している。特別授業は今年で7回目。「佐渡から考える島国ニッポンの未来」を基本テーマに、多様性や地方の可能性について考えている。

学 習

210人が申し込んだ特別授業は6月26日に開催。特別講師として日本総合研究所主席研究員の藻谷浩介さん(57)と国際交流基金の原秀樹さん(53)、東京大学教授の玄田有史さん(56)が参加した。

学校蔵からは藻谷さんと原さんが授業。藻谷さんは、佐渡の現状についてクイズを交えて紹介。原さんは、佐渡の高校生と米国の学生に聞いた日本の印象を元に、日本を見詰め直す授業を展開し、「日本のことは日本人である自分が一番分かっていると思うことをやめることから始めてはどうか」とアドバイスした。

栃木県の小針美和さん(43)は「2年ぶりに授業を受けられてうれしかった。佐渡に行ってみみんなで授業を受けたいという気持ちも強まった」と話した。